

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：大倉山保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：南雲早苗	定員（利用人数）：90名 （利用者103名）
所在地：〒222-0003 横浜市港北区大曾根1-7-1	
TEL：045-542-5632	ホームページ：http://www.kyousaikai.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2011年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 神奈川県匡済会	
職員数	常勤職員：24名 非常勤職員：12名
専門職員	園長 1名 次長 1名
	主任 1名 保育士 26名（派遣職員含む）
	保育補助 1名 栄養士 2名
	調理師 1名 看護師 1名
	経理事務 1名 業務支援 1名
施設・設備の概要	保育室 6部屋 トイレ 6か所
	調理室 1ヶ所 事務室 1室
	ホール、多目的室、相談室 健康観察室、職員休憩室、更衣室
	調乳室、沐浴スペース 倉庫、教材室
	園庭 有 テラス、駐輪場、ベビーカー置場

③ 理念・基本方針

<p>《法人の基本理念》</p> <p>あらゆる人の尊厳を守り 常に人が人として 文化的生活を営めるよう その自立に向けた支援に務める</p> <p>《保育目標》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・のびのびと元気に遊ぶこども</li><li>・ともだちと育ちあうこども</li></ul> <p>《保育姿勢》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子ども一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、安心して生活できるようにします</li><li>・人のふれあい・つながりを喜び、共に育ちあうことを大切に保育していきます</li><li>・家庭や地域のつながりを大切に、共に、楽しい子育てをしていきます</li></ul>
---

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

##### 【障害児、医療的ケア児の積極的な受け入れ】

使命感をもって、体制と環境を整える努力を続けています。今年度は3名の職員が第三号研修を受講し、介護職員等による喀痰吸引等を実施する為の勉強に励んでいます。

##### 【育児相談の実施】

保育士・看護師・栄養士がそれぞれ資格を活かして疑問や悩みに寄り添っています。園児の保護者に限らず、どなたからのご相談でも受け付けています。（要予約）

##### 【園内研修の充実】

・『保育の見える化』をスローガンに掲げ、他クラスの保育や取り組み、課題や悩みを全員で共有し、園児一人を全員の職員で見えていくという姿勢で保育に当たっています。

・人権研修にも力を入れており、多様性を受け入れ、すべての利用者様の人権を尊重したかわりについて考える機会としています。

・年に1回は救命救急の研修に参加しています。

・年に1回は港北警察署の生活安全課の方にお越しいただき、さまざまな事例を参考にして不審者対応訓練を行っています。

##### 【子ども主体の保育】

月や週の計画はありますが、子どもからの発信やその日の状況で柔軟に過ごし方を変えています。行事も子ども達が主体となって進めています。

##### 【食育】

園内の畑では、春から夏にかけては野菜を、秋に向けてはサツマイモを育てています。子どもたちは毎日水やりをしながら、観察を楽しんでいます。収穫した野菜は皆で美味しく頂きます。

##### 【地域や自治会との連携】

普段から親しくしており、施設長が自治会の会合にも参加しています。

地域の方が行事のお手伝いや応援に駆けつけてくださいます。

また、業務支援者として、園内整備を行って下さる方が居り、花壇や畑、その他の環境整備を行いながら園児や保護者の皆様の安全に気を配り、地域と園の橋渡し役としても活躍して下さっています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年4月30日（契約日） ～ 令和5年2月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

## ⑥総評

### ◇特長や今後期待される点

1)使命感をもち、ハンディのある子どもたちも積極的に受け入れています  
健全な子どもだけでなく、発達に偏りのある子ども、肢体にハンディがある子ども、医療的ケアを必要とする子どもも、共に育てることができる保育園になりたいという使命感を持ち、積極的に障がい児を受け入れています。そのために、保護者と十分話し合いを重ね、医療機関、療育センター、リハビリテーションセンターなど関係機関と連携して、職員確保、環境整備をはじめ、個別支援の体制を整えています。医療的ケアについて現在、看護師による経管栄養、喀痰吸引をしています。保育士も実施できるよう資格取得の研修、勉強に励んでいます。

### 2)職員の定着率が高く、働きやすい職場環境づくりがされています

職員の退職が少なく定着率が高いため、安定した運営を実現しています。年に2回以上職員と面談し、就労に関する希望や意向を丁寧に聞き取っています。育児休暇や誕生日休暇、年次有給休暇の積極的な取得を呼びかけています。子育て中や体調不良の職員が復帰するために柔軟な出勤体制を組むなどの配慮をしています。時間外労働を削減するため、職員会議の時間帯変更や、事務時間を交代でとれるようシフトを編成したり、工夫をして働きやすい環境を整えています。

### 3)広範な分野に内部監査があり、ガバナンスを強化しています

運営上に生じる経営課題、人員体制、環境設備等のさまざまなリスクに関して、毎年11月に、法人の担当者が「リスク管理のヒヤリング」を実施しています。そこで改善すべき点が生じると、2～3年後に改善がされているかの確認をしています。また、経理事務、個人情報保護、書類の管理等に関して内部監査があります。厨房について、食品衛生コンサルタントによる「食品衛生管理を行うための厨房監査」を2ヶ月に1回行っています。これは、衛生管理をより徹底するために、法定ではなく、自主的に実施しています。

### 4)経営上の諸課題についても職員の関心を高めていくことを期待します

園の経営上の諸課題に関して、園長、法人の意図を様々な機会を通じて職員へ示していますが、職員へのより分かりやすい周知の方法及び職員の理解にも課題が見受けられます。今回の第三者評価で実施した「職員自己評価」の回答率も、50%にとどまっています。また、経営状況、中・長期計画、事業計画に関する認識についても「どちらともいえない」と回答した職員が過半数でした。園が将来めざすべき方向性や課題について、職員の関心を高め、理解を浸透させて、組織一体となった取組につなげることが期待されます。

### 5)クラス間で保育を共有できる仕組み作りが望まれます

全体的な計画に基づき、年間保育計画および月案が作成されていますが、より具体的な子どもの日々の生活に即した「短期的な計画」がありません。子どもたちが主体的に、様々な経験を通して、興味関心に沿って活動できるよう、その都度、柔軟な環境の再構成が必要です。その一方で子どもたちの日々の姿に合わせて活動を行なうなど、柔軟な取り組みもなされています。クラス担任間はもちろん、他クラスと共有するような日常的なやり取りはあるようですが、月案のねらいや内容を具体的な活動や環境設定として示すことが求められます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回の受審から5年が経ち、その間、保育を取り巻く環境は新型コロナウイルスにより大きく変化しました。感染リスクを伴う場でもある保育園において、保護者や地域から求められる安心や安全についても変化してきているように感じます。その中で安定した保育運営を継続できているのは、働き方や休暇取得について柔軟に対応してきた結果、職員が定着し、園全体の経験値が上がっているからに他なりません。そして、保護者の皆様、地域の皆様、連携機関等、大倉山保育園に関わってくださっている多くの方々との繋がりや支えがあってこそだと思っています。

今年度、第三者評価を受審し大倉山保育園の現状について、全職員で自己評価に取り組んだことは、各職員の認識や捉え方の違いを含め、しっかりと共有できていること、いないこと、強み、弱みなどを把握するために、とても良い機会となりました。今回の評価結果は、大倉山保育園において、地域に根差した施設運営を行うための課題を

明確にし、今後に向けて目標設定を行っていく上での客観的指標となりました。

評価していただいた項目については今後さらに推進していくとともに、改善を必要とされる項目については十分に検討を重ねながら保育の質の向上に努め、職員一丸となってより良い施設を目指して努力していきたいと考えています。更には、前例に捉われないことなく、新しい取り組みについても模索・検討し、常に必要とされる地域資源であるよう努めて参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり